

単元名「分かる！伝える！できる！愛顔の跳び箱運動」（第2～6学年）

久万高原町立柳谷小学校 久良 洸二

1 対象学年の人数

2～6年全校体育

2年2名（男子1名、女子1名）、3年1名（女子1名）、4年1名（女子1名）

5年3名（男子2名、女子1名）、6年1名（男子1名）

2 単元の目標

	2年生	3・4年生	5・6年生
技能	○ 数歩の助走から両端で踏み切り、跳び乗りや跳び下りをしたり、両手で支持してまたぎ越したりできるようにする。	○ 基本的な支持跳び越し技ができるようになる。	○ 基本的な支持飛び越し技を安定してできるようにするとともに、その発展技をできるようにする。
関心・意欲・態度	○ 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりできるようにする。	○ きまりを守り、友達と励まし合ったり、場の安全に気を付けたりして進んで運動することができるようにする。	○ 運動に進んで取り組み、役位側を守り助け合って運動したり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
思考・判断	○ 器械・器具をつかった運動遊びの動き方を知り、友達のよい動きを見付けられるようにする。	○ 技の基本的なポイントを知り、友達にアドバイスしたり、自分の力に応じた練習方法を選んだりすることができるようにする。	○ 技の基本的なポイントを知り、友達にアドバイスしたり、自分の力に応じた練習方法を選んだりすることができるようにする。

3 身に付けさせたい力の系統表

	低学年 〈マット・跳び箱を使った運動遊び〉	中学年 〈器械運動〉	高学年 〈器械運動〉
技能	○ それぞれの器械・器具で楽しく運動を行い、運動の基礎となる感覚や動きを身に付けることができる。 踏み越し跳び 支持でまたぎ乗り・またぎ下り 支持で跳び乗り、跳び下り 支持でまたぎ越し	○ 基本的な支持跳び越し技や回転技ができる。 【切り返し系の技】 開脚跳び 大きな開脚跳び かかえ込み跳び 【回転系の技】 台上前転 大きな台上前転	○ 基本的な支持跳び越し技や回転技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができる。 【切り返し系の技】 安定した開脚跳び 大きな開脚跳び かかえ込み跳び 【回転系の技】 安定した台上前転 大きな台上前転 首はね跳び 頭はね跳び
態度	○ 進んで運動遊びに取り組もうとしている。 ○ 順番やきまりを守り、友達と仲良く運動しようとしている。	○ めあてをもって、進んで運動に取り組んでいる。 ○ 順番やきまりを守り、友達と励まし合いながら、運動している。 ○ 運動する場や器械・器具の使い方などの安全に気を付けようとしている。	○ めあてをもって粘り強く運動に取り組んでいる。 ○ 順番やきまりを守り、友達と助け合って運動している。 ○ 運動する場や器械・器具の安全に気を配っている。
思考・判断	○ 運動遊びの行き方を知るとともに楽しく遊ぶために運動する場や使用する器械・器具などを選んでいる。 ○ 運動遊びの動き方を知るとともに友達のよい動きを見付けることができる。	○ 基本的な技の練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法を選んでいる。 ○ 「ウルトラマスターブック」を見ながら技のポイントを確認し、友達に具体的なアドバイスができる。 ○ タブレット端末を活用して模範演技と自分の演技の映像を比較し、違いに気付くことができる。	○ 自己の能力に適した課題とその解決方法を考え、自分の課題に応じた練習の場や段階を選んでいる。 ○ 「ウルトラマスターブック」を見ながら技のポイントを確認し、友達に具体的なアドバイスができる。 ○ 技のポイントを示し、友達とタブレット端末の映像を確認しながら友達にアドバイスができる。

4 単元構想

<p style="text-align: center;">特 性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人で課題をもちやすいため、自分にできる技を繰り返して行ったり、より高い課題に挑戦したりすることで楽しみや喜びを味わうことができる。 ○ できなかった技ができるようになったり、仲間と認め合ったりすると楽しさが増し、自己有能感を得られる。 ○ 技のポイントを理解し、仲間とアドバイスし合ったり、タブレット端末を活用して自分の動きを客観的に見たりすることによって、自分の力に応じた練習方法を選ぶことができる。 	<p style="text-align: center;">子どもの実態</p> <p>実態1 学年差や個人差が大きく実態は様々である。昨年度も跳び箱の学習を行い、概ねの子どもは学年相応の技を習得している。しかし、一部で腕の支持力が未熟であったり、リズムよく助走から踏切につながれない子どももいる。</p> <p>実態2 アンケートによると、6人が跳び箱運動が「好き」と答えており、概ね好意的であるが、4年生と6年生が「好きではない」と答えており、技の難易度が上がるにつれ苦手意識や恐怖心が芽生えている。</p> <p>実態3 2、3年生はよい動きに目を向け、称賛することができる。4～6年生はどこがよいのか、どこを正せばよいのかを具体的にアドバイスすることができるようになってきている。</p>
<p style="text-align: center;">身に付けさせたい力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学年に応じた基本的な支持跳び越しができる。 2 きまりを守り、仲間と励まし合ったり、場の安全に気を付けたりして進んで運動に取り組むことができる。 3 基本的な技の動き方やポイントを知り、仲間へアドバイスしたり、自分の力に応じた練習方法を選んだりすることができる。 	
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">愛 顔 い っ ぱ い 体 育 学 習</p>	

学習過程	時間	子どもの活動及び思い	指導上の留意点	評価規準 (評価観点) (評価方法)				
知る	1	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">自分のめあてをきめよう。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年ごとの取り組む技や学習の進め方を知る。 ・ きまり、学習の場、用具の安全な使い方について知る。 ・ 「ウルトラマスターブック」の使い方を知る。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">技に挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模範演技を見る。 ・ 技に挑戦して、自分たちの力を知る。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">習得したい技をきめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のつながりを意識させるために、3～6年生には、前年度の跳び箱運動を、2年生には跳び箱遊びをそれぞれ想起させる。 ○ 単元の終末に発表会を行うことを伝え、子どもの学習意欲の向上を図るとともに学習への見通しをもたせる。 ○ 感覚づくり運動を子どもの実態に合わせて行い、技を支える基礎体力や運動感覚を養う。 ○ 「ウルトラマスターブック」を使い、技のポイントや練習場面を確認させる。 ○ タブレット端末を活用し、自分の演技を客観的に見て、今できる技を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなで体を動かすことの楽しさに気付き、進んで感覚づくり運動に取り組もうとしている。 (関・意・態) (観察) ○ 技ができるようになるために、これからの学習の見通しをもつ。 (思・判) (観察) 				
親しむ	2	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">跳び箱に親しもう。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">跳び箱遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 踏み越し跳び ・ またぎ乗り ・ 跳び上がり ・ 跳び下り ・ 馬跳び 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 模範演技の映像を、タブレット端末を使って見て、技のポイントを理解させる。 ○ 各技の練習はグループやペアで行い、仲間と励まし合いながら技能の向上を図る。 ○ アドバイスの際には、「ウルトラマスターブック」を活用させ、観点に沿った見方ができるようにする。 ○ 練習の場を工夫したり、基礎感覚を確実に身に付けさせたりすることで、心理的な不安を取り除く。 ○ 跳び箱上での動きを、タブレット端末を活用して録画・視聴し、仲間との違いや自分の変化に気付かせる。 ○ ペアやグループで技を確認し合い、より美しく技を行うにはどのような練習をすればよいか、「ウルトラマスターブック」やタブレット端末の手本動画を参考に考えさせ、練習方法を選択させる。 ○ PDCAサイクルで学習を進めるために、毎時間の成果と課題を考えさせる。 ○ アドバイスの際のよかった言葉掛けを交流させ、「言葉の宝箱」として記録、掲示することで、子どもの語彙力の向上や、言語活動の促進を図る。 ○ 毎時間のポイント毎の写真を記録し、手本の写真と並べて掲示することで、自分の成長の変化や課題が分かるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ きまりを守り、安全に、補助運動をしようとしている。 (関・意・態) (観察) ○ 技のポイントを意識して課題に応じた場を選び、工夫しながら運動している。 (思・判) (観察) ○ 仲間のよいところを見付け、自分の技能に生かすことができる。 (思・判) (観察・ワークシート) ○ 運動のポイントを押さえアドバイスし合うことができる。 (思・判) (観察・ワークシート) ○ 技に応じた踏み切り、着手、空中姿勢、着地のポイントをおさえて跳ぶことができる。 (技) (観察・ワークシート・動画) 				
身に付ける	3 4 5 6 7	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">基本の技を習得しよう。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">基本の技を練習する。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 2px;">トレーニングタイム</td> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 2px;">チャレンジタイム</td> </tr> </table> <p>(低学年) 開脚跳び (縦横4段) (中学年) 台上前転 (高学年) 安定した開脚とび 安定した台上前転</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">発展技を習得しよう。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">発展技を身に付ける</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 2px;">トレーニングタイム</td> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 2px;">チャレンジタイム</td> </tr> </table> <p>(低学年) 開脚跳び (縦横5段) (中・高学年) 大きな開脚跳び 大きな台上前転 抱え込み跳び (高学年) 首はね跳び 頭はね跳び</p>	トレーニングタイム	チャレンジタイム	トレーニングタイム	チャレンジタイム	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">【振り返り】</p> <p style="text-align: center;">動画から成果と課題を見付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の能力に合った技を選ばせ、今までの学習の成果を發揮させる。 ○ 映像でも記録を残し、仲間からの評価を受ける。(第1時の自分とも比較させ、自分の成長を感じさせる。) ○ 来年度の学習で、過去の自分として振り返るためのデータとして学年ごとに保存する。
トレーニングタイム	チャレンジタイム							
トレーニングタイム	チャレンジタイム							
生かす	8	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">練習してきた技を発表し合い、互いのよいところを伝え合おう。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">発表する技を、ポイントに気を付けながら練習する。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">技を発表し、よかったところを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の能力に合った技を選択し、発表することができる。 (思・判) (観察) ○ 基本的な支持跳び越し技(切り返し系)の技・回転系の技)ができる。 (技) (観察・動画) 					

5 本時の指導

(1) 指導観

本時は、大きく3つの構成に分けて授業を進めていく。初めに、感覚づくりの運動を行うことで跳び箱運動に必要な支持感覚、リズム感、体の調整力を身に付けさせる。中間では、同じ技を選択したペアで学習に取り組む。低学年は開脚跳び、中・高学年は選択した技の練習を行う。低学年は、跳び箱遊びを取り入れながら楽しみながら開脚跳びができるようにする。中・高学年はウルトラマスターブックを活用し、技を習得するための下位運動に取り組んだり、技のポイントを押さえて練習したり、友達同士でアドバイスしたりできるようにする。また、タブレット端末を活用することで、技の状態を客観視できるようにする。終末では、本時に撮影した演技を見ながら自己評価、相互評価を行う。できた喜びを共有し合うことで、達成感や自己有能感を味わわせるようにする。また同時に、課題を見付け、次回への意欲を高める。さらに、よかったアドバイスについても意見交換させることで、児童の関わり合いを促進させたい。

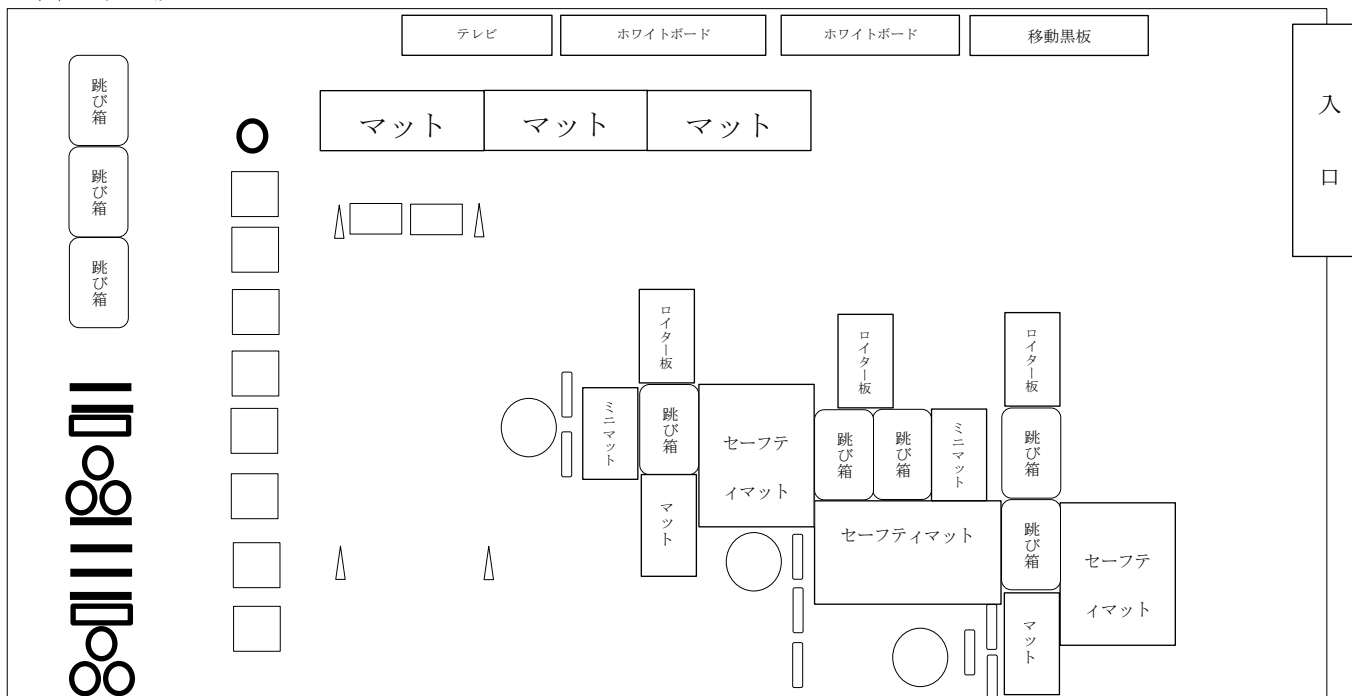
(2) 目標

	2年生	3・4年生	5・6年生
技能	・ 踏切や着手位置に気を付けて開脚跳びができる。	・ 技のポイントに気を付けながら選択した技ができる。	・ 技のポイントに気を付けながら選択した技ができる。
関心・意欲・態度	・ きまりを守り、場の安全に気を付けて仲よく運動をすることができる。	・ きまりを守り、友達と励まし合ったり、場の安全に気を付けたりして進んで運動することができるようにする。	・ きまりを守り友達と励まし合って運動したり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
思考・判断	・ 開脚跳びのポイントを知り、友達の演技のよい所を見付けることができる。	・ 選択した技のポイントを知り、自分に合った練習の場を選んだり、友達の演技に対して簡単にアドバイスしたりできる。	・ 選択した技のポイントを知り、自分に合った練習の場を選んだり、友達の演技に対して具体的にアドバイスしたりできる。

(3) 準備物

テレビ、ホワイトボード（2台）、移動黒板（1台）、マット（5枚）、ミニマット（2枚）、譜面台（8脚）、跳び箱（8台）ロイター板（3台）、タブレット端末（4台）、ウルトラマスターブック、ミニフープ（7本）、フラフープ（3本）、ミニコーン（3本）、台車（2台）、椅子（7脚）、ミニハードル（6台）、板（2枚）

(4) 場の設定



(5) 展 開

学習活動	時間	○指導上の留意点	◎評価(低)	◎評価(中)	◎評価(高)
1 準備体操をする。	3	○ 簡単な健康観察と準備体操を行う。			
2 感覚つくりの運動をする。 ①体調整運動 ②カエルの足打ち ③ウサギ跳び	5	○ 腕による支持感覚を意識させることで、跳び箱運動に必要な感覚を身に付けさせる。 ○ リズム太鼓の音に合わせて行うことで、跳び箱運動に必要な体の調整力やリズム感を身に付けさせる。			
友達とアドバイスし合って、課題の技をお手本に近づけよう。					
3 学習課題とポイントを確認する。	5	○ 各技のポイントを確認することで練習時に意識させるようにする。 ○ 模範演技写真と前時までの自分の写真を比較させることで、本時の課題を意識できるようにする。 ○ 同じ技を選択した者でペアやグループを組ませることで、共通の課題意識をもって練習に取り組みせ、課題解決への意欲の向上を図る。 ○ 個人のめあてを確認し合うことで、ペアやグループの相手と課題を共有する。	◎ 開脚跳びのポイントが分かる。 【思考・判断】	◎ 自分が選択した技のポイントが分かる。 【思考・判断】	◎ 自分が選択した技のポイントが分かる。 【思考・判断】
4 自分たちの課題に合った練習方法を選んで練習する。(トレーニングタイム)	10	○ サイコロで練習場所を決定することで、偶然性を楽しみながら、開脚跳びの下位運動に取り組めるようにする。(低) ○ ウルトラマスターブックやタブレット端末を活用させ、自分に合った練習方法を選択できるようにする。(中・高)	◎ きまりを守り、安全に気を付けながら練習に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】	◎ 自分の課題に合った練習方法を選ぶことができる。 【思考・判断】	◎ 自分の課題に合った練習方法を選ぶことができる。 【思考・判断】
5 自分たちの選択した技を練習する。(チャレンジタイム) ↓ (撮影タイム)	12	○ 「撮影タイム」と「練習タイム」を区別することで、児童の運動量が確保されるようにする。 ○ タブレット端末を使って演技を撮影させ、スローや静止で演技を確認させることで、的確に技の出来映えを確認したり、アドバイスしたりできるようにする。 ○ ウルトラマスターブックを活用させることで、観点に沿ってアドバイスできるようにする。 ○ できるようになったことを発表し、友達と喜びを共有し合うことで、達成感や自己有能感を高める。 ○ 教師は、必要に応じて補助、助言や称揚の声掛けを行い、児童の意欲や思考力の向上を図る。	◎ 踏切位置や着手位置に気を付けて、開脚跳びができる。 【技能】 ◎ 友達のよい所を見つけて、伝えることができる。 【思考・判断】	◎ 友達と励まし合いながら、きまりを守り、安全に気を付けながら練習に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】 ◎ 技のポイントに気を付けて、選択した技ができる。【技能】	◎ 友達と励まし合いながら、きまりを守り、安全に気を付けながら練習に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】 ◎ 技のポイントに気を付けて、選択した技ができる。【技能】
6 本時の振り返りを行う。	5	○ タブレット端末を活用し、本時の演技を確認することで次回への課題を見付けられるようにする。 ○ 友達の演技の動画を見てアドバイスし合うことで、語彙力の向上や言語活動の促進を図る。		◎ 技のポイントを観点にして、友達に簡単にアドバイスできる。 【思考・判断】	◎ 技のポイントを観点にして、友達に具体的にアドバイスできる。 【思考・判断】
7 片付けを行う。	5	○ 「協力」と「安全」を意識して、素早く片付けを行う。	◎ 友達と協力して、安全に片付けができる。 【関心・意欲・態度】	◎ 友達と協力して、安全に片付けができる。 【関心・意欲・態度】	◎ 友達と協力して、安全に片付けができる。 【関心・意欲・態度】

(6) 研究の視点

- ・ 同課題をもつ者でのグループ構成、「ウルトラマスターブック」による技の視点を明確化、タブレット端末の活用方法は、全校体育の中で仲間同士の関わりを促進する上で有効であったか。
- ・ 授業構成や場の設定は、全校体育で児童が確実に技能を身に付ける上で有効であったか。